

おわりに

本研究所においてはこれまでも様々な言語障害教育に関する研究を実施してきた。言語障害（構音障害、吃音、言語発達の遅れ）のある子どもに対する教師の見方、かかわり方に関する研究、指導・支援や評価の在り方に関する研究、保護者への支援の在り方に関する研究、通級指導教室の経営や機能・役割に関する研究等である。研究の実施に際しては、目的に接近するために、その課題に応じて研究協力者や研究協力機関を依頼してきた。研究協力者は必然的に言語障害教育及びその周辺領域の学識経験者や、研究課題に関する知見が豊富で、優れた実践を行っている通級指導教室担当者であることが多かった。

本研究は通常の学級に視点をおくことで、これまで実施してきた研究とは状況が異なった。通級指導教室の経営や、構音障害、吃音等の実践に詳しいという観点だけでなく、通常の学級での指導や、学級経営に関する知見が必要となる。当初、本研究においては、通常の学級担任の先生にも研究協力者を依頼する必要があると考えた。しかしながら、通常の学級担任の日常を考えたとき、はたして2年間この研究に時間と労力をいただけるのかという現実的な思いが生じた。それと同時に、通級指導教室等の言語障害教育担当者との人的ネットワークは充実させてきたが、通常の学級担任、通常の教育とのつながりが課題であることを実感した。かつて通級指導教室担当者として研究協力いただいた先生が、現在は通常の学級担任として活躍している等、これまでの研究活動を通していくらか通常の学級担任とのつながりはあったが、特別支援教育の推進に向け、研究においても通常の教育と連携を深めていかなければとの思いを強くした。この点でも、本研究が「通常の学級と通級指導教室の連携」を取り上げたことの意義は大きいと考えている。実際に本研究で研究協力者を依頼したのは、学識経験者の他は通級指導教室担当者であるが、言語障害教育の経験・知見が豊富で通常の学級との連携について多様な取組を行っている先生方と、通常の学級担任の経験が豊富で、学級経営、学級指導に実績のある先生方である。

本研究を進めていく上で、研究協力者の方々とともに実践を考え、議論を繰り返してきた。4回にわたる研究協議会では、様々な場で行われている取組やその背景にある事柄、各地の通級指導教室の実践や研修に関する情報等を提供いただき、通常の学級との連携、通常の学級での生活の充実について考えてきた。勿論、研究協議会は本研究の目的への接近に向けた過程ではあるが、そこでの情報交換、議論は参加者の各々の教育実践や研究にとって刺激的なものでもあった。また研究協議会を通して相互理解や絆も深まったように感じている。このような仲間と貴重な機会が持てたことに感謝する次第である。

言語障害のある子どもの日々の生活に資するために追究していくべき課題はまだなお多く残されている。今後も各地の通級指導教室等の言語障害教育に携わる先生方、通常の学級での教育に携わる先生方と連携・協力しつつ、課題の追究に向けて努力を続けていく所存である。まずは、本報告書が言語障害のある子どもの通常の学級における学習や生活の充実への一助となることを願う。

研究代表者 教育研修・事業部主任研究員 牧野 泰美

